



修二だより

平成29年度 特別号



京都市立修学院第二小学校

校長 川口 正二

TEL. 075(781)5400

FAX. 075(791)5400



HP <http://www.edu.cityv.kvoto.jp/hp/svugakuindai2-s/>

平成29年度全国学力学習状況調査の結果

4月18日に、本校6年生52名を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・算数）

国・京都府の平均と比べてみると国語「主として知識」ではやや上回り、「主として活用」ではやや下回る結果が見られました。算数「主として知識」ではほぼ同様、「主として活用」ではやや上回る結果がみられました。

朝と昼の帯学習の時間を活用し、さらに力を伸ばしていきたいと考えています。

国語科より

「主として知識」では「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる」問題の正答率が平均より上回っており、学校図書館の活用が図られていることがその一因と考えています。その一方「主として活用」では「目的や意図に応じて適切な言葉遣いで話す」問題の正答率が平均を下回っており、国語科での授業の工夫や総合的な学習の時間のさらなる充実に取り組んでいきたいと考えています。



算数科より

「主として知識」では「整数の乗法の計算」や「加法と乗法の混同した整数と小数の計算」問題の正答率が平均より下回っているため、昼の帯学習の時間を有効に活用し習熟を図っていきたくと考えています。「主として活用」では「示された式の中の数の意味を表と関連付けながら正しく解釈しそれを記述する」問題の正答率が平均より上回っており、日頃の学習において、その日学習したことを「大切」としてまとめたり、学習内容をふりかえったりすることを習慣化した成果であると考えています。

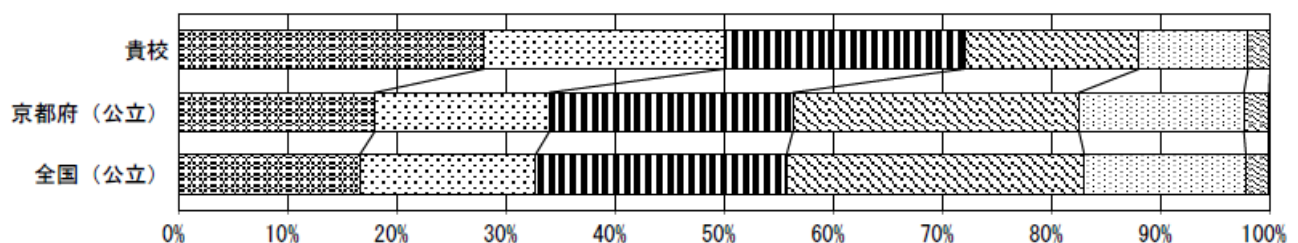


児童質問紙調査から①

設問(12) 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除く)

1日に3時間以上見る児童の割合が、全体の50%で、国・京都府の平均を大きく上回っています。携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを1日に3時間以上する児童の割合も国・京都府の平均を大きく上回っており、家庭での過ごし方について家庭内で、また学校と連携して考えていく必要があると考えています。

1. 4時間以上 2. 3時間以上、4時間より少ない 3. 2時間以上、3時間より少ない 4. 1時間以上、2時間より少ない
5. 1時間より少ない 6. 全く見たり、聞いたりしない その他 無回答

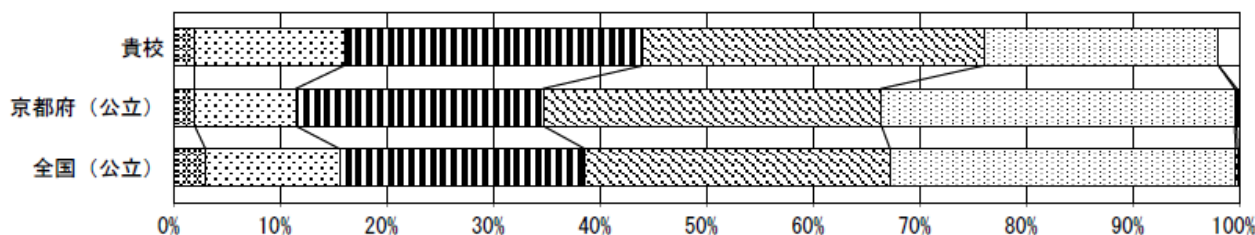


児童質問紙調査から②

設問 (19) 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか

月に1～3回以上行くと答えた児童の割合が、国・京都府の平均を上回っており、日ごろの学校図書館の活用が図られている成果であると考えており、今後も活動を充実させていきたいと考えています。

1. だいたい週に4回以上行く 2. 週に1～3回程度行く 3. 月に1～3回程度行く 4. 年に数回程度行く
5. ほとんど、または、全く行かない その他 無回答



本校の成果と課題

本校では、「確かな学力を身につけ、心豊かに、健康でたくましく行動し、自分の将来を切り拓いていくことのできる子どもの育成」という学校教育目標のもと、教職員一丸となって取組を進めています。

学力向上の取組に関しては、ジョイントプログラムの結果の情報共有や分析を行い、日々の指導方法の改善や、個に合った指導に努めています。また、基礎基本の学力を身に付けるために、朝と昼の帯時間を活用し、読書、計算練習、漢字の練習に取り組んでいます。また、学校図書館を活用し、読書活動を進め、読書に親しめるようにしています。

本校では、昨年度まで算数科を中心に授業研究を進めておりました。その中で、めあてを持って学習に向かい、自分で考えたことを友だちと伝え合ったり、大切なことをノートに書いてまとめたりする活動を積み重ねました。今回、算数B(活用)の、「数量関係を一般化し、そのきまりを記述する」問題で全国平均を大きく上回ることができました。これまでの成果の表れと考えられます。今年度からは、総合的な学習の時間、生活科、道徳を中心に授業研究を進めています。自分で課題を設定、解決したり、考えたことを相手に伝える方法を身に付けたりする取組を進めています。質問紙の結果から、本校の児童は自分の考えを持っているが、それをみんなの前で発表することは得意ではないと考えていることが分かります。これまで算数科で身に付けてきた、考えたり伝え合ったりする力をさらに広げ、自分なりの方法で相手に伝える力を身に付けられるよう授業の工夫をしていきたいと考えています。そして、子どもたちが自分らしさに気付き、よりよく生きるために必要な力を身に付けていけるよう、学校全体で取組をすすめていきたいと考えています。

保護者の皆様

全国学力調査は、子どもたちの可能性をさらに伸ばし、課題を解決するためのものです。学力は、毎日の学びの地道な積み重ねにより定着していくものです。今後も引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境作りにご協力いただきますよう、お願いいたします。